

揖斐農林事務所の普及活動状況 令和7年3月21日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■新規就農者 第2回新規就農者研修会の開催

2月27日に、揖斐地域就農支援協議会主催の第2回新規就農者研修会を開催し、就農5年目未満の新規就農者13名が参加した。

今回は、第1回研修会講師を務めた元県農業普及指導員の日比野氏のは場視察と「道の駅 パレットピアおおの」で意見交換会を行った。

視察では、直売所出荷で高収益を得るための作付け計画の作成方法や品種選択、苗づくりのコツなどを学んだ。意見交換会では、直売所の販売戦略や出荷者への要望事項等について道の駅の担当者から情報提供をいただき、質疑応答や参加者同士の交流を行った。

違う品目同士の新規就農者の仲間づくりの場となり有意義な研修会となった。

今後も農業普及課では、就農5年未満の新規就農者への伴走支援を重点に普及活動を行う。



【研修の様子】

■女性農業者 野菜づくりの栽培拡大に向けて

3月12日に、JAいび川池田東支店で池田東地区営農部会の野菜栽培講習会が開催され19名が受講した。当支店では、野菜づくりに関心のある女性に参加を促し、毎月色々な講習会などの活動を行っている。

今回、農業普及課が講師となり、「初夏どり野菜づくり」と題して土作りと夏野菜（トマト、なす、ピーマン）の生理生態並びに栽培管理について解説した。

今後も女性農業者育成のため、野菜づくりの講習会を通して支援を行う。



【講習会の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■麦・大豆 共励会表彰式

3月13日に、岐阜市で令和6年度岐阜県麦作共励会及び岐阜県豆類経営改善共励会の表彰式が開催され、大野町の（農）稲富ファームと揖斐川町の（農）しらかしが各部門で優良賞を受賞し、表彰を受けられた。

（農）稲富ファームは小麦「イワイノダイチ」を作付けし、畦立同時播種やドローンの導入により省力化を図るとともに、種子ほ場で雑草防除に力を入れ良質な種子生産に努めた。また、（農）しらかしは大豆「フクユタカ」を作付けし、排水対策や適期の防除実施など丁寧な作業を心掛け、いずれも高品質な大豆を生産していることが評価された。

農業普及課は共励会参加にあたり生産や経営の支援を行ってきた。今後も引き続き、優れた取り組みを地域へ波及できるよう普及活動を行う。



【受賞された（農）稲富ファーム（左）、（農）しらかし（右）の皆さん】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■いちご 中間目揃え会の開催

管内の各いちご生産組合において、春期の出荷に向けた目揃え会が3月7日、21日、24日に開催された。気温が上昇し、出荷量が増加する3～4月の品質保持のため、市場側から着色基準の順守について依頼があった。

農業普及課からは、過熟果対策や春期の管理、来作の親株の管理について情報提供を行った。今後も引き続き、高品質ないちごを出荷するための支援を行う。



【目揃え会の様子】

■茶 AS I A G A P維持審査 ～国際認証16年目～

3月13～15日に、(農)桂茶生産組合において、審査機関(インターテック・サーティフィケーション(株))によるAS I A G A P維持審査が行われた。

同組合は、平成21年に岐阜県第一号でJ G A P団体認証を取得し、平成29年には輸出に向けた対応としてAS I A G A P団体認証を取得し維持している。

審査は2名の審査員により3日間行われ、農業普及課はオブザーバーとして参加した。

審査員との意見交換から得た情報について、今後G A Pを志向する生産組織に還元し、産地力維持に向け継続支援を行う。



【維持審査(製茶工場)の様子】

■かき 揖斐地域果樹産地協議会の開催

大野町かき振興会と関係機関で構成する揖斐地域果樹産地協議会は、果樹産地構造改革計画に基づき、柿産地の維持発展に向けた活動を展開している。

3月14日に第2回協議会を開催し、第1回目に協議した計画に対する実績について構成員から報告を行った。また、新たな果樹産地構造改革計画の策定が令和7年度に予定されているため、更新案の内容について協議した。

農業普及課は、果樹産地の活性化に向け継続支援を行う。



【産地協議会の様子】

中山間地域を守り育てる対策

■徳山なんば 令和7年産用苗の播種を実施

3月5日に、「道の駅 星のふる里ふじはし」において徳山なんばの第1回は種作業が行われた。徳山なんば振興協議会員がセルトレイに種をまき育苗機にセットした。昨年からの定植作業の省力化及び生育期間の長期化を図るため、は種時期を2回に分けて栽培を行っている。農業普及課は、は種方法と芽だしまでの管理について説明した。

作業終了後は、3月22日に「道の駅 星のふる里ふじはし」で行われるイベントでのPR活動について打ち合わせを行った。

次回のは種は4月上旬を予定しており、次年度に向けて着々と準備が進められている。



【は種作業の様子】